



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

TEL 0993-52-1359

南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-22-6422

サツマイモ基腐病対策は生育後半防除が重要

1 サツマイモ基腐病対策

令和6年産のサツマイモ基腐病の発生状況は土壌処理剤（フリントフロアブル＋フロンサイドSC：2回）の体系防除により8月までは発生を低く抑えることができましたが、9月に入り発生が増加しました。

7年産のさつまいもでは、生育後半（梅雨～夏期～収穫）の体系防除が重要となります。表1の防除薬剤を参考に防除してください。次年度の種いも生産ほ場は特に防除対策を行ってください。

表1 生育後半防除例

植付からの経過週	植付（例：4/15）	
	9週間後（6/17）	トリフミン水和剤 200 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ ／10a 2000倍
	12週間後（6/24）	I C ボルドー66D 200 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ ／10a 50倍
	14週間後（7/8）	I C ボルドー66D 200 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ ／10a 50倍
	18週間後（8/5） （台風通過後）	トリフミン水和剤 300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ ／10a 2000倍

2 ヒルガオハモグリガ対策

近年ヒルガオハモグリガによる被害が多発しています。さつまいものツルの上で蛹化すると、クモの巣を張ったような状態になります（写真1）。

写真1 ヒルガオハモグリガの被害状況
クモの巣状に見える

発生回数が多いため各虫態が混在しており、多発時には1週間おきに2～3回防除します。葉裏まで薬液がかかるように丁寧に散布してください（表2）。

また、農薬散布時には周囲への飛散防止に努めてください。

表2 ヒルガオハモグリガ防除農薬

農薬名	希釈倍数	使用回数
プロフレアSC	2,000～4,000倍	3回
ディアナSC	2,500～5,000倍	2回
ベネビアOD	4,000倍	3回

ネギハモグリバエB系統の発生実態と防除対策

1 はじめに

令和5年度に根深ねぎにネギハモグリバエB系統による被害が拡大し、出荷不能になる圃場も発生しました。

このため、令和6年度にネギハモグリバエB系統の発生実態調査を実施するとともに、農業開発総合センターと連携して効果的な防除方法を検討しました。



写真 ネギハモグリバエB系統と被害状況

2 発生実態調査の概要

(1) 粘着板による発生実態調査

ア 南さつま市では、金峰地区で3月中旬に初発を確認しました。

イ 根深ねぎの被害は5月の定植時期から発生し、8月以降各地に拡大しました。

特に、10月は激発した圃場も見られました。

(2) 薬剤防除歴とネギハモグリバエの発生状況

ア 生産者の防除歴を調査し、ネギハモグリバエ発生状況と比較した結果、発生時期を捉えて定期的に防除すれば、発生を抑えられることがわかりました(図1)。

イ しかし防除回数が8回と多く、費用もかかっており、低コスト化や防除作業の省力化が課題です(表1)。

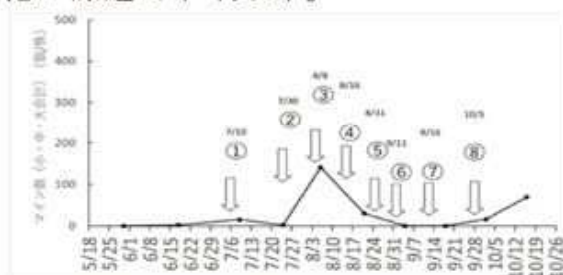


図1 防除歴と発生状況の比較事例

表1 防除回数と農業費用

散布時期	農薬名	散布倍率	10a散布量	必要量	単価	金額(円)
① 7月10日	アグロスリン乳剤	2,000	200L	100mm	11円/mm	1,100
② 7月30日	アグロスリン乳剤	2,000	200L	100mm	11円/mm	1,100
③ 8月8日	ダブルシューター	1,000	200L	200mm	16円/mm	3,200
④ 8月16日	ダブルシューター	1,000	200L	200mm	16円/mm	3,200
⑤ 8月31日	ダントツ水溶剤	2,000	200L	100g	17円/g	1,700
⑥ 9月11日	カスケード乳剤	4,000	200L	50mm	26円/mm	1,300
⑦ 9月16日	ブレオフロアブル	1,000	200L	200mm	11円/mm	2,200
⑧ 10月5日	アグロスリン乳剤	2,000	200L	100mm	11円/mm	1,100
合計 8回						14,900

※農業代金は10a散布量で試算。単価は南さつま協同調べ

3 防除作業の省力化と低コスト化

(1) 農業開発総合センターの試験結果

農業開発総合センターの試験結果から、約20日間隔で粒剤を組み合わせることで防除した場合でも、10日間隔で薬剤防除した場合と同じ程度の防除効果が期待できることがわかりました。

また、6～7月のネギハモグリバエ発生密度を抑えることが、その後の被害軽減に繋がることも推測されました。

(2) 農薬のローテーション散布事例

農業開発総合センターの試験結果等を踏まえ、粒剤を組み合わせることで、約20日間隔で定期的に農薬散布する方法を提案します(表2)。

表2 粒剤と農薬散布の組合せ事例

散布時期	農作業	散布薬剤	RACコード
6月	定植	スタークル粒剤	4 A
		アグロスリン乳剤	3 A
7月		ダントツ水溶剤	4 A
8月	土寄せ	ダブルシューターSE	5
		ダントツ粒剤	4 A
9月		アグリメック	6
		ディアナSC	5
10月	土寄せ	ダントツ粒剤	4 A
		プロフレアSC	30
11月		アグロスリン乳剤	3 A
合計		10回	

(注)同じRACコードの農薬を続けて使用しないこと

4 今後の取組

令和7年度もネギハモグリバエ発生調査を継続し、適切な防除時期を把握するとともに、粒剤を組み合わせた農薬のローテーション散布の普及及び効果確認に努めます。

「ザルビオ・フィールドマネージャー」を活用した キャベツの生育・出荷予測

1 はじめに

指宿では大規模経営の主品目として青果用キャベツの生産が盛んで、1法人当たりが管理するほ場数が増加しています。

そこで、令和6年度より、適期の管理と収穫による計画的生産の精度を高め、収量・品質向上を図ることを目的に、スマート農業の一種である「ザルビオ・フィールドマネージャー」（以下、「ザルビオ」）を利用した生育出荷予測を実証しています。

2 ザルビオとは

衛星画像やAI解析を活用してほ場管理の効率化を図るシステムで、生育・気象状況の把握や雑草管理、農機連携による可変施肥など多様な機能があります。また、パソコンやスマートフォンアプリで手軽に確認ができ、登録をするとほ場ごとの分析結果が地図上に表示されます。

3 令和6年度の取組

生育状況を数値化する「生育マップ」をもとに、生育・収穫時期を予測し、実測値等との差異を検証しました。

生育マップは、数値が大きいほど生育旺盛（緑色）と判断されます（図1）。



図1 生育マップ

結果は、寒玉系は高温の影響もあり、精度にばらつきがあったものの、2～3月収穫の春系では、ザルビオをもとにした予測値（生育マップの値が下がり始めたとき）と農家の収穫目安（この作型、品種では定植後120日前後）がほぼ一致しました（図2）。

なお、この時のキャベツ1個重は平均1.2kgと収穫基準を満たしており、定植日からの積算温度は1600℃でした。

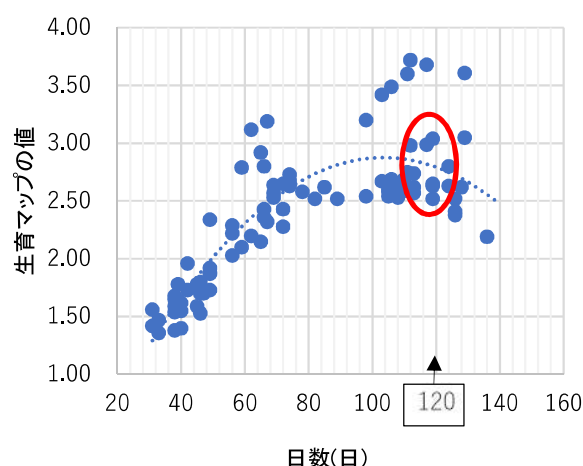


図2 生育マップの値と日数

4 今後の活動

令和7年度は、ほ場の地力を画像化したデータ等も活用して、収量の向上に繋がる生育の均一化などに取り組む予定です。

5 おわりに

令和6年度は指宿市のスマート農業推進協議会を主体に、市、法人、農業開発総合センターと連携しながら取り組みました。引き続き関係機関の協力のもと、地域に適したスマート農業の取り組みを推進していきます。

サシバエ対策

1 発生状況

サシバエは肉用牛・乳用牛に対し、吸血による直接的被害や感染症媒介による間接的被害を与えます。サシバエの年間発生状況は春と秋に2つの山が確認され、盛夏には減少します（図1）。

今回は、薬剤に頼らない対策を紹介します。

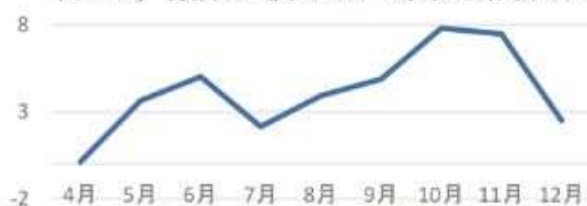


図1 サシバエ捕獲数(匹/10cm)

2 防虫ネットの取付

2mm x 4mm穴の防虫ネットを牛舎に取り付けます。写真1のように軒から地面部分まで設置すると牛舎内へのサシバエ侵入を防ぐ上では効果的です。防虫ネットを設置した場合は夏場の換気が必要です。牛舎内の扇風機を活用してください。



写真1 ネット設置状況

サシバエの活動時間は日の出から日の入りの昼間なので、夜間はネットを開けても大丈夫です。

3 サシバエ捕獲用粘着剤

青色の粘着板シートが、サシバエの捕獲数が最も多く、他の虫が捕獲されにくい粘着剤です（写真2）。粘着剤もうまく活用してください。



写真2 色別粘着シート例

キクの萎れネグサレセンチュウ類対策について

1 ネグサレセンチュウ類の被害症状

▽定植後の生育が悪く、立枯れ症状がでる。

▽株を引き抜いて根を見ると、根系の発達が非常に悪く腐敗部がみとめられる。

▽健全株に比べきわめて生育が悪く、すぐに萎れる。草丈は低く、生育ムラができることが多い。

2 センチュウの調査

▽農政普及課ではセンチュウの調査をすることができます。

▽センチュウの口の部分に口針（こうしん）が有るか無いかで、おおまかな判定ができます。

▽センチュウ調査を依頼する場合の留意点

①疑わしい株の根の周りの土を採取する。

②採取した土壌は乾燥させない。

3 防除方法

▽植付け前の土壌消毒

▽植付け時の薬剤土壌混和

▽薬剤の灌注処理

※防除の詳細については農政普及課へお問い合わせください。



キクに害を与えるセンチュウ(写真左)と、そうでないセンチュウ(写真右)